



焼尻島オンコの荘

天然記念物に指定される
圧巻の生命力を放つ自然林

日本海に浮かぶ焼尻島は、羽幌港から24kmの沖合いにあります。島の形がクサビ型をした周囲12kmの小島で、イチイの北海道での呼び名であるオンコの島として知られています。国の天然記念物にも指定されている焼尻島の自然林は、この島の中央部からほぼ東半分に広がっています。オンコをはじめ、ミズナラを主体にイタヤカエデ、キハダ、シナ、ホウ、ナナカマド、ハンなど約50種類に及ぶ樹木が確認されており、その中には樹齢300年ともいわれるアカエゾマツの巨木もあります。

焼尻島の森はいわゆる普通の森とは趣を異にしています。一部の樹木は上へと伸びずに、上から押しつぶされたように広がっているのです。なかでも、一般的には高さ15mほどに成長するオンコが、ここでは高さわずか1.5mほど。それにもかかわらず、その枝の広がり直径10mを超えるほどで、地を這うように成長して、独特の風景を作りだしているのです。実際に見るとその大きさに驚かれます。

こうした樹木は「希有性森林相」と呼ばれています。なぜこのような形になったかは、大陸からの強く激しい季節風や、雪の重みによるものだといわれ、また、森が深いために若木は木漏れ日を探しながら成長したためだともいわれています。そんな奇妙な形をしたオンコが、1ha約600本もあるのが焼尻島の「オンコの荘」です。「オンコの荘」では自然が持つ圧倒的な力と、樹木の生命力を素直に感じることができます。

見どころ

国の天然記念物にも指定されている焼尻島の自然林は、オンコをはじめ約50種類に及ぶ樹木が確認されており、その中には樹齢300年ともいわれるアカエゾマツの巨木もあります。島は野鳥や野生の花の宝庫でもあり、訪れる人を楽しませてくれます。

ポイント

上から押しつぶされたように枝が横に広がった「匍状型樹形」や風圧に押されたように風下に傾いて成長した「風衝型樹木」など、極めて珍しい姿で生長した樹木が生える焼尻島の森林は「希有性森林相」と呼ばれる貴重な森を形成しています。

五感で感じる！ 風土資産の魅力

聴く 触る 味わう 嗅ぐ 知る

触る

10mもの枝を広げる老樹である「オンコの荘」。その大きく独特な形をした枝に触れると、自然の持つ圧倒的な力を感じることができるでしょう。

嗅ぐ

普通だと高さ15mほどに成長するオンコが、上から押しつぶされたように枝を横に広げているため、より近くに木々のおいを嗅ぐことができます。

■基本情報 (R1.5)

記念物指定：国指定天然記念物(焼尻の自然林)
指定年月日：昭和58年8月30日
住所：羽幌町大字焼尻